

秋の県外日帰り研修(報告)

満蒙開拓平和記念館と香嵐溪三州足助屋敷を訪ねて

10月30日に秋の日帰り研修「満蒙開拓平和記念館と香嵐溪三州足助屋敷を訪ねて」を開催しました所、参加者は20名を数え、参加者の中には満蒙開拓を体験された方々の参加もあり、例年になく充実した研修となりました。

今回は例年と違い来年度開館予定の「たかす開拓記念館(仮称)」の情報及び民具の知識を得るための企画でした。当日の朝は冬型の気圧配置で寒く、蛭ヶ野では時雨れていたようですが、天気は晴れており、まずまずの研修日和でした。バスの車内では会長さんから資料に基づいた「満蒙開拓」「満州国」についての説明があり、更に高鷲から満州の琿春に入植され、ソ連の参戦によって逃避行をされた方の苦労話が披露され、阿智村「満蒙開拓平和記念館」見学への期待が一段と高まった。



開拓平和記念館前で参加者全員記念写真



ボランティアから説明を受ける会員

開拓平和記念館ではボランティアの方から説明があり、館内が他の観光客団体で混雑していたため順番を変え、最初に「新天地満州」、「引き揚げと再出発」のコーナーから見学した。団体客が退館された後、「時代で知るタイムトンネル」や「大陸へ」、「敗戦と逃避行」、「証言」などのコーナーの説明を受け、会員は熱心に耳を傾けていた。展示資料を読み、苦労と悲惨であった満州開拓の思いを知った。そして、中国残留孤児の肉親捜しに奔走された山本慈昭氏が住職をしていた長岳寺を拝観し、足助に向かった。

足助は、巴川のせせらぎに木々が映え、四季折々の美しい風景を見せる町である。

足助の観光名所は「香嵐溪」で、飯盛山の中腹にある香積寺の和尚が江戸時代に植えた楓が始まりとされる。三州足助屋敷はその川沿いにある民俗博物館で、足助地方に昔から伝わる農家の機織りや炭焼き、わら細工、染色、木地屋、竹細工など手仕事の技を再現した郷愁溢れるところである。敷地内には牛が飼育されており、伝統的な土蔵や農家の造りが再現され、民具の展示や実演もされ、大変見ごたえのある博物館であった。



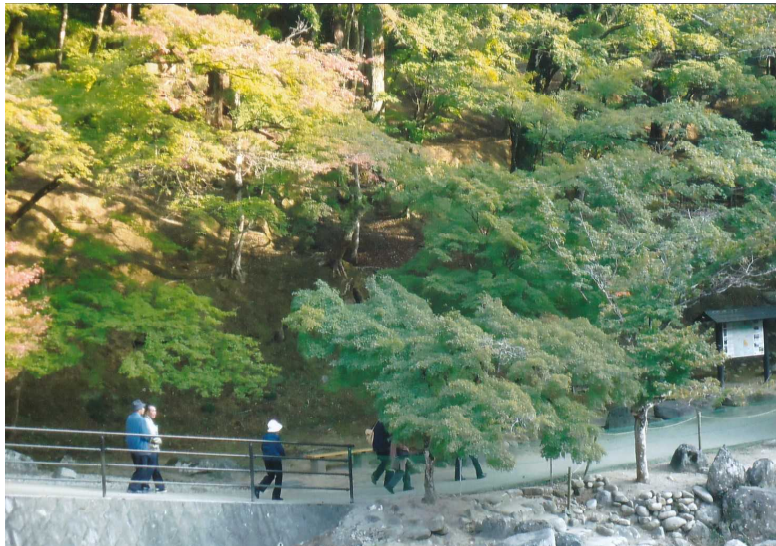
三州足助屋敷入り口の茅葺きの長屋門

予定より30分遅れの午後6時45分に無事高鷲振興事務所前に到着し、解散した。ここで、参加会員が詠まれた俳句を紹介し、報告を終わります。

「身に入みて満蒙開拓悲話を聴き」 (和美)

「談笑のバスに迫りし紅葉山」 (和美)

「五平餅食べつつ紅葉の坂のぼる」 (和美)



香嵐溪の遊歩道を歩く会員

「学ぶこと多き旅路に秋惜しむ」 (和美)

「村の灯に戻れば時雨ありにけり」 (和美)

「もみじ葉の 流るる里や 開拓の絆」 (詠み人知らず)